

平成 20、21 年度 中期目標の達成状況報告書

平成 22 年 6 月
福岡教育大学

目 次

I. 中期目標の達成状況

- 1 教育に関する目標の達成状況 1
- 2 研究に関する目標の達成状況 8
- 3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況 10

II. 改善を要する点についての改善状況 11

I. 中期目標の達成状況

1 教育に関する目標の達成状況

中項目	1 教育の成果に関する目標
-----	---------------

小項目番号	小項目 1	小項目	「教養教育、専門教育の充実を図り、豊かな教養に基づいた人間性、教科や学問領域における専門性、さらに教育に必要な実践力を備えた有為な教育者を養成する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1－2	「教科や学問領域における専門性と教育に必要な実践力を獲得させるために、専門教育のカリキュラムを改善する。」に係る状況		○ 学習指導要領の改訂など、社会のニーズに即したカリキュラムの改善を行うため、平成 20 年度に、「平成 21 年度学部カリキュラムの改善策」を取りまとめ、平成 21 年度から年度進行に応じて実施した。主な改善点は以下の通りである。 1. <u>学問領域の専門性を高めるカリキュラムの改善</u> ・初等教育教員養成課程に新設された「英語」、「技術ものづくり」及び「生活・総合」の 3 選修における選修専門科目の開設 など 2. <u>高度な教育実践力を獲得するためのカリキュラムの改善</u> ・4 年次後期に科目「教職総合実践演習」を新設し、その実施形態として、教職経験者又は現職教員を「教職実践指導教師」として採用し、授業を実施した。 これらの大幅なカリキュラム改善と特徴的な実施形態は、本学の理念を体現しただけではなく、平成 18 年度に実施した「卒業生アンケート調査結果」等を踏まえた、デマンドサイドのニーズを反映したものである。 (別添資料 1, p1)

小項目番号	小項目 2	小項目	「教育に関する諸問題の研究能力と教育実践の水準を向上させる高度な専門的力量を持った学校教員を中心に、併せて地域社会に貢献しうる人材を養成する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

計画 2-1	「教育に関する諸問題を研究する能力と教育実践の水準を向上させる能力を身につけさせるために、大学院のカリキュラムを改善する。」に係る状況	○ 教育に関する諸問題を研究する能力は、専門とする学問領域に関して深い知見を有し、並びに学問のみならず、社会的諸問題にも目を向ける広い視野を有していることに支えられるものと考え、その能力を発展させながら教育実践力に結びつけるため、平成 21 年度に次の 3 つの科目を開講した。 a) 発展科目：専門科目の知見を実践にフィードバックし、理論知と実践知の融合を図る。 b) 教育科学基礎科目：専門性を支える広い視野を備える。 c) 広域発展科目：専門性を深化させつつ現代の教育課題を広い視野で洞察し、教育現場における実践力に資する力量・資質を養う。 これらの科目を実施した後、修士課程 1 年生に対して、それぞれの科目についてアンケート調査を行った結果、「教育科学基礎科目」「発展科目」「広域発展科目」のどの教科に関しても、開設の目的に合致した授業運営がなされており、受講生の満足度も高いことがわかった。 (別添資料 2, p 2)
計画 2-2	「教育委員会や学校等の地域の諸機関と連携した実践的な大学院教育を行う体制の整備について検討する。」に係る状況	○ 生徒指導及び学校経営等について、より実践的な大学院教育を推進すべく、平成 21 年 4 月に専門職学位課程として、教職大学院（教育学研究科教職実践専攻）を開設した。教職大学院に、<u>教育実践力開発コース</u>、<u>生徒指導・教育相談リーダーコース</u>、及び<u>学校運営リーダーコース</u>の 3 つのコースを置き、目標とする教員の養成に取り組んだ。 ○ 教職大学院の運営に関して、特に教育委員会との連携を密にしながら行えるように、次に示すような取組を行った。 a) 「教職大学院運営協議会」の設置：福岡県、福岡市及び北九州市の各教育委員会関係者の参加を得て、教職大学院の運営に関して協議を行うため設置し、大学並びに教育委員会の双方から議題提案を行うことが可能とした、など。 以上の取組により、教育委員会や学校等の地域の諸機関と連携した実践的な大学院教育を行う体制を整備し、機能させることに成功した。 (別添資料 3, p 3)
計画 2-3	「就職率の向上等のため、就職・進路指導体制の充実を図る。」に係る状況	○ 学生の進路に関して、すべての教員が細やかな就職指導を行えるようサポートするため、キャリア支援センターを中心に、以下に示す種々の具体的取組を計画・実行し、キャリア支援を充実させた。 a) 「就職担当者連絡会」を定期的に開催した。 b) 「正規教員 150 を目指すアクションプラン」を提案し、大学後援会と協力して 3 回の学内模擬試験を導入する、などの取組を行う。 c) 「キャリア支援システム」のデータ入力を開始した。 d) 平成 21 年 10 月から進路希望に応じた 3 年生向けのガイダンスを開始した。 ○ 平成 21 年度に、概算要求プロジェクト（若年層教員キャリアモチベーションシステム開発事業）が採択され、平成 22 年度から実施することが決定した。このプロジェクトでは、若年層のキャリアモチベーションを解明することを目的とし、得られた研究成果を、本学のキャリア支援に活かすことを計画している。 (別添資料 4, p 4)

小項目番号	小項目 3	小項目	現職教員の継続学習を支援し、学校教員の専門的能力の向上に寄与する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3－1	「現職教員に対して多様な研修ができるよう組織的に取り組む体制を整備する。」に係る状況		○ 現職教員に対する研修を行うには、地理的な利便性を考慮する必要があると考え、平成 20 年度の調査の結果、サテライト授業に対する一定のニーズが存在することが明らかになったことから、サテライト授業及びサテライト教室に関する提言を取りまとめた。 このニーズに対応するため、平成 21 年度には、<u>サテライト授業の実施体制の確立を目指し、IP ビデオ Phone による遠隔授業システムを活用したサテライト授業の実施体制を整備し、さらに規定整備のため「福岡教育大学大学院教育学研究科における遠隔授業システムを活用した授業に関する申し合わせ」を制定した。</u>これらの取組により、実施体制を確立することに成功した。 ○ 附属学校教員の 10 年経験者研修において、本学大学院担当の教員が講義を行うなどの、現場教員に対して多様な研修の機会を保障する体制が整備され、実施されている。 （別添資料 5, p 5）

中項目	2 教育内容等に関する目標
-----	---------------

小項目番号	小項目 1	小項目	「大学の一層の活性化のために、教育への高い関心を持ち、豊かな個性や優れた能力を備えた多様な学生の受け入れを推進する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 1－1	「入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を踏まえた入学者選抜方法の改善策を研究しつつ実施し、教育分野に志の高い、すぐれた学生の確保に努める。」に係る状況		○ 本学のアドミッション・ポリシーを入学希望者に対してより正確に伝えるため、文言の統一及び内容の整備を行い、①大学案内の別冊子、②学生募集要項、③ホームページ、④大学入試センターハートシステム等に掲載のうえ周知した。 ○ 平成 20、21 年度入学生に対して行ったアンケート調査結果を分析し、「平成 20、21 年度入学者選抜方法に関する調査報告書」を完成させ、文部科学省や福岡県教育委員会等、関係先への配付を行った。調査結果では、アドミッション・ポリシーの周知が着実に進んでいることが明らかになった。 ○ 平成 22 年度及び平成 23 年度以降に向けて、センター試験の教科・科目別の利用方法の統一化及び個別学力検査の精選を行う、などを行った。 （別添資料 6, p 6）

小項目番号	小項目 2	小項目	「本学の基本理念及び教育目標を踏まえ、21 世紀社会を担う教育者養成に相応しい教育課程の充実及び教育内容・方法の改善を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	「強い進学動機とともに、本学大学院の教育目標のより高度な達成を目指すに相応しい入学者の受入れを推進する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 4	小項目	「学校教育及び教科の教育に関する諸問題に対して、高度な専門的知識とその実践的活用力の向上を目指した教育課程の編成及び教育内容・方法の改善を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 4－1	「各専攻に相応しいカリキュラムを編成し、授業科目の精選を図るとともに、現職教員の継続学習を重視したカリキュラムを整備する。」に係る状況		○ 平成 21 年度に新設した教職大学院において、学生のニーズに応じた <u>3 つの教育コースを設置</u>し、以下の科目群を設定した。 ① 全コースにまたがる「共通科目」 ② コースごとに固有の「コース別科目」 ③ 実習科目「学校における実習」 さらに、本学教職大学院では、「実践の事実」を通じた学習を重視し、<u>すべてのコースに 2 年間の実習を課すこととした。</u> ○ 教職大学院生に対し、上記科目の授業実施後にアンケート調査を行い、3 つの科目種類すべてにおいて、授業目的が十分に達成されていることを確認した。 ○ 平成 21 年度の修士課程の改組に伴い、教育学専攻に「教育学基礎科目」、「発展科目」及び「広域発展科目」を導入し、加えて夜間開講の実施体制を充実させた。平成 21 年度の授業実施後、学生に対してアンケート調査を行ったところ、授業目的は十分に達成されており、<u>学生の授業態度や学修状況も適切な水準に達していることが示された。</u> (別添資料 7, p 7)

計画 4-2	「単位制度の実質化を図るために、適正な履修登録と授業の事前・事後学習の指導を徹底する。また、明確な成績評価基準、適正な成績評価方法について研究する」に係る状況	○ 平成 21 年度に、教員に対しては「事前・事後学習の指示」に関して、学生に対しては「事前・事後学習の実態」と「成績評価の適切性」に関してアンケート調査を行った。アンケート結果は、教員による事前・事後学習の指示の割合が増え、その結果として、学生が授業外学習にあてる時間が増加したことを示した。さらに、成績評価基準の明確さについての学生による評価も、平成 20 年度に比べて改善した。 ○ 教職大学院が独自に作成し、学生に配布している「履修ガイドブック」において、授業科目ごとに成績評価基準、到達目標及び、評価の判断基準を公表・周知した。 ○ 教育科学専攻の全コースにおいて学位論文の審査基準として「修士論文研究に関する指導指針」を設け、ホームページにて全学大学院生に周知した。
--------	---	--

(別添資料 8, p 8)

中項目	3 教育の実施体制等に関する目標
-----	------------------

小項目番号	小項目 1	小項目	「本学の教育目標の達成を図るために教育組織を見直すとともに、教職員の適切な配置や連携等により、教育実施体制を充実させる。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「教育施設・設備等の整備・充実及びその有効活用を推進し、図書館や各種センターの教育支援機能の一層の充実によって、教育環境の向上を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	「学生への教育活動を適切に評価する内容・方法を検討し、本学教員の教育意欲、教育能力の向上及び授業内容・方法の改善に向けた取り組みを推進する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3-4	「シラバスの充実に向けた取り組みを推進する。」に係る状況		○ 平成 20 年度に全講座で開催した「教育内容・方法に関する検討会」及び「教育成果の検証に関するアンケート調査」より得た情報を基に、平成 21 年度授業科目の<u>シラバス記載の際の指針及び記入例を作成し、これを基に各教員がシラバスを記載した。</u> ○ 平成 21 年度から大学院のシラバスに「<u>授業と教育との関連性</u>」の項を設け、<u>当該授業が学校教育現場</u>

		が抱える問題及び課題等とどのように関連しているかを学生に提示した。 ○ 平成 21 年度に修士課程にシラバスチェックシステムを導入し、実施要項等を定めて次の通り全授業科目にわたり実施した。 a) シラバスチェックを行う際、6つの観点等を設け、これに基づき授業担当教員の自己点検及び大学院常任委員会での再点検を行い、各観点について ABC の 3 ランクによる評価を行った。 b) シラバスの点検結果フィードバックを受けた各大学院担当教員は、研究科長からの改善要請事項に基づきシラバスを修正した、などである。 (別添資料 9, p 9)
--	--	---

小項目番号	小項目 4	小項目	「本学の大学院教育の目標の達成を目指して、現職教員や社会人等、入学者の多様な状況に柔軟に対応できる大学院教育体制の一層の充実を目指す。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 4-2	「修士 1 年制及び長期在学コース等の設置を検討・実施する。」に係る状況		○ 平成 20 年度に、大学院において現職教員・社会人等の多様なニーズに対応し、その修学機会を拡大するため、長期履修学生制度及び単位累積制度に関して次の取組を行った。 a) 長期履修学生の受入れに関して資格要件及び手続等を決定した。 b) 単位累積加算制度を導入するために、福岡教育大学大学院規程第 20 条（入学前の既修得単位等の認定）を改正した。 ○ 平成 21 年度に、長期履修学生制度の導入に伴い「福岡教育大学大学院教育学研究科長期履修学生に関する規程」を制定し、大学院学生募集要項及びホームページで同制度を広報・周知した。なお、平成 22 年度大学院教育学研究科入学試験においては、<u>長期履修学生制度の利用について 1 名の申請があり</u>、同規程に基づき許可を行った。 (別添資料 10, p10)

中項目	4 学生への支援に関する目標
-----	----------------

小項目番号	小項目 1	小項目	「将来、教育者として活躍できる豊かな個性と人間性及び確かな専門性と実践力を育むための学習支援、情報提供体制の充実を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「生活相談・支援体制や就職支援体制等の充実を図り、入学以降卒業・修了に至るまで、学生の健やかな大学生活を支援する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

2 研究に関する目標の達成状況

中項目	1 研究水準及び研究の成果等に関する目標		
-----	----------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	「多様な学問分野における基礎的・応用的研究を充実させるとともに、その成果を学内外へ積極的に還元する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「学校教育が抱える今日的諸課題や教員養成のあり方に関する研究を推進し、学校教育の支援と質的向上に貢献する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	「子どもを取り巻く今日的諸課題及び生涯学習に関わる研究を推進し、地域における子どもの健やかな成長・発達及び地域社会の発展に貢献する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 4	小項目	「研究成果の収集・整理に努め、その成果の検証とともに、公表・活用することによって、学生への教育及び地域や国際社会に貢献する。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

中項目	2 研究実施体制等の整備に関する目標		
-----	--------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	「多様な学問分野における基礎的・応用的研究や時代や社会が要請する諸課題に関する研究推進のために、研究組織及び連携体制の充実により、研究の活性化を図る。」の分析
-------	-------	-----	---

計画番号	中期計画	平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画		平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「研究基盤の拡充とともに、全学的・重点的な研究支援体制を充実させ、研究環境の改善を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 3	小項目	「研究活動状況の把握や評価等のためのシステムを構築し、研究の質的向上を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
下記以外の 中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。
計画 3－2	「各教員の研究の質の向上のためにサバティカル制度の導入を検討する。」に係る状況		○ サバティカル制度の具体的な内容及び実施方法等に関する基本設計を行い、平成 20 年度に「国立大学法人福岡教育大学サバティカル研究者派遣規程」等を制定した。この規程に基づき、平成 21 年度サバティカル研究者を <u>3 名決定し、派遣した</u>。 ○ 平成 21 年度には、平成 20 年度の取組をふまえ、平成 22 年度以降の実施方法の見直しや改善策について検討しつつ、平成 22 年度サバティカル研究者を <u>3 名決定した</u>。3 名のサバティカル研究者は、科学研究費補助金の採択者 1 名、申請中が 2 名であり、また学内募集の研究活動活性化設備充実費に応募するなど活発な研究活動を行っており、<u>派遣者の選定が研究の質的向上に結びつくかたちで、適切に行われている</u>。 (別添資料 11, p11)

3 社会との連携、国際交流等に関する目標の達成状況

中項目	1 社会との連携、国際交流等に関する目標		
-----	----------------------	--	--

小項目番号	小項目 1	小項目	「地域社会との連携・協力及び教育面における社会サービスを積極的に行うことにより、本学の社会貢献活動の一層の充実を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

小項目番号	小項目 2	小項目	「国際交流を活発に行うための諸施策を整備・推進することにより、本学の教育研究の国際化を図る。」の分析
計画番号	中期計画		平成 20 年度及び 21 年度における実施状況
全中期計画			平成 19 年度までの取組等を引き続き継続的に実施している。

Ⅱ. 「改善を要する点」についての改善状況

改善を要する点	改 善 状 況
【教育】 該当なし	
【研究】 該当なし	
【社会等】 該当なし	